



Title	摂理における布教・教化過程の研究
Author(s)	櫻井, 義秀
Description	日本宗教学会第66回学術大会. 平成19年9月15日～平成19年9月17日. 東京都
Citation	宗教研究, 81(4), 1210-1211
Issue Date	2008-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35183
Rights	日本宗教学会
Type	journal article
File Information	sakurai-18.pdf



った。事件の印象も、どうして騙されるのか理解できないという意見が主で、マインドコントロールという心理状態が社会であまり理解されていないことがうかがえる。

入信要因については、日本人は無宗教が多く問題教団に無防備であること、人間誰にでも起こりうる可能性があるというコメントも聞かれた。対策としてはインターネットでの情報収集、大学の啓発活動を期待する声が多い。宗教団体が起こした事件が大きく報道されると、宗教一般までが悪いイメージでとらえられるという危惧があるが、大方は、摂理は正しい宗教活動とは無関係として、宗教一般とは切り離してコメントした。一方で、宗教の存在意義そのものを否定する意見も一件あった。

報道する側の問題点としては、コメント内容がテロップで誤って表示され正反対の意味になっていたり、韓国語が正しく訳されていないなど、番組を作る側の知識不足やミスが見られた。また、元女性信者が被害状況を語るインタビューが繰り返され報道されたが、啓発という意味があるとしても、男性の視点から見た一種の興味本位的な見方なのではないかと疑問を抱かざるを得ない。

識者や文化人のコメントは肩書きによる権威も手伝ってか、信憑性をもって視聴者に影響を与えている面もあるだろう。タレントなどがごく平凡な感想を述べる場合も、井戸端会議の延長のような雰囲気、同意を形成しやすいのかもしれない。そして、それはまた逆にとらえると、社会のこの事件に対する考えが現れたものと見ることもできる。

摂理における布教・教化過程の研究

櫻井義秀

一 発表趣旨

筆者は中央公論誌上(二〇〇六年一〇月号「摂理はキャンパスの中にいる カルトの被害をどう食い止めるか」において、韓国の摂理批判団体である「EXODUS」、摂理本体のウェブサイト、韓国で数多く発刊されている似而非(さいび)宗教・異端宗教の概説書や研究書をもとに、摂理の教義や組織の特徴を説明した。今回の報告では、二〇〇六年末に摂理脱会者支援を行う元信者から資料提供を受け、また、元信者六名にグループ・インタビュー等を行い、摂理の教団としての布教戦略、信者の入信・回心・脱会の過程を分析したものである。

本発表の主要な内容は、「キャンパス内のカルト問題―学生はなぜ摂理にはいるのか」「高等教育ジャーナル―高等教育と生涯学習」(二五号、一一一四頁、二〇〇七年)に発表しているので参照していただきたいが、この発表要旨では摂理の教団形成、教義の特徴については内容を割愛し、信者の入信過程・脱会過程の特徴のみをまとめておきたい。

二 摂理信者の入信・回心過程

①韓国、日本ともに学生への布教方法は似ており、サークルを偽装して対象者が慣れた頃に「バイブル・スタディ(三十講論の学習)」に移行する。大学ごとに布教状況・実績を報告

第9 部会

し合い、競わせる構造がある。

② 摂理の教義を内面化する場面は、バイブル・スタディ、主日礼拝、教会の活動の三領域に分けられ、摂理の学習は師弟相伝の趣がある。

③ 完全にスケジュールが相互管理された信者の生活だが、心霊復興のために月明洞（摂理本部）ツアーや教祖の日本訪問等があり、感動的な教祖との出会いを経験するものもある。

三 摂理信者の脱会理由

① 教会生活は肉体・精神の酷使を前提としており、ついていけない人が少なくない。

② リーダー経験を積むと、役職者の不正やきれいな事を取り繕う体制の綻びが見えてくる。

③ インターネットや新聞・雑誌の摂理批判記事から自分の活動を反省的に捉え直す。

④ 学生・青年信者が教会生活をしていても三〇代以降の人生（合同結婚が予定されるのみ）が見えてこない。

⑤ 女性メンバーの中には、鄭明析の性的暴行を受けたりして、教祖の恣意的行為を一切認めない教会の体制に失望したりするものもある。

四 人間関係への嗜癖

摂理に限らず、新宗教の一部でも顕著であるが、信者と教祖、信者同士、信者と布教対象者との間に共依存的な関係が認められる。アン・ウィルソン・シェフ『嗜癖する人間関係』（誠信書房、一九九九）を参考にまとめてみれば、次のように考えられよう。

① 仮面をかぶる。信者同士互いに信仰者アイデンティティを呈示し、競い合う。

② 相手の理想像を自己へ、自己の理想像を相手に投射する。互いに実像はみない。

③ 相手を宗教的理想に沿うようにコントロールする。

共依存的状況を愛と錯覚し、まといつかれたり、まといついたりする人間関係への嗜癖を断ち切ることは信者にとつてかなりの覚悟を要する。多くの信者は疲れ果てて教団を離れていくが、その際、脱会者が作成したウェブサイトやインターネットを介したサポートにより回復していくというのも、学生・青年中心の教団的特徴といえる。